

中央会今昔物語

今も現役会員に脈々と語り継がれている武勇伝を、自称“中央会のかたりべ”のN会員より口述筆記した今は懐かしい真実の記録。まさに今年度のテーマ「雑(つなぐ)」にふさわしい感動と爆笑のドキュメンタリーをお送りする。

第一話「孫の手」

時は平成五年冬、例会も滞りなく終わりそれぞれ気の合った会員どうし夜の朝日町に語らいの場を移す光景は今と変わらない。そんなグループの一つにS会員・N会員・そして今はOBとなられたF会員の姿があった。(この先FOBをフィリップ、S会員をサビチェビッチ、N会員をニコライとさせていただくこととする)二軒めを後にした時フィリップは言った。「ニコライ、おまえの彼女のどこに行きて飲み直さいや」ニコライは彼女に断られることを多少期待しながら電話をかけると意外にも「いいわよ」の返事、何かに悪かれたようにはしゃぐフィリップ。しかし悪かれていたのはサビチェビッチだったことをフィリップはまだ知らない。

フィリップは彼女の部屋に入るなり、「この家にある酒みんな持ってきてみしよ」と要求。コタツの上には日本酒・ワイン・焼酎・ウイスキー・ブランデー更には料理酒まで並び「全部飲むまで今日は帰らん」と高らかに宣言し、次々と杯を空けていく。当然のことながらサビチェビッチとニコライに「わしの酒がのめんだか！」と一気飲みを強要する。サビチェビッチもニコライも間違いなく左党、強要されることをこれ幸いと勢い良く酒を浴びる。時計の針が12時を回った頃、サビチェビッチが帰るといいだした。目は虚ろ足元もおぼつかないが、いつものことと気にも留めずサビチェビッチの後ろ姿を見送った。フィリップもニコライも当然サビチェビッチは自宅に帰るつもりだと思っていたのが大きな間違い、何かに悪かれたサビチェビッチは普段から行き来をあるフィリップの家にあがりこんでいたのだ。その時フィリップの奥さんフランススがいればいつものことと事無きを得たのだが、たまたま病院に付き添いにいっており不在、かわりにフィリップの御母さんバババングが留守を預かっていたから一大事、真夜中に面識のない獣と化した酔っ払いが老女に言う「あんた誰？ちょっと小便させやい」と風呂場へ、「お兄さんそっちは便所じゃないで」と勇気を持って言う老女に「大丈夫、大丈夫」ジョロジョロジョロ…サビチェビッチの息遣は愉快な音をたてて汚水をそこ、ここに吐き出す。「フィリップの馬鹿たれはどこ行きちようかいな、はやこと戻ってこんかね」バババングは遠巻きに様子を見てみると、サビチェビッチは居間に入ってしまった。すると中からバシッ、バシッと何かで叩く音がする。老女は襖をそっと開け中を覗いてみると「だらよ！だらめが！」とぶつぶつ唱えながら、孫の手で畳をたく阿修羅のごとき酔っ払いが今にも崩れ落ちそうになりながらあくをかくている。ひときわ大きく「何がいけん。いいがらん！」断末魔の叫びをあげ、野獣は行き来をあるフィリップの家にあがりこんでいたのだ。老女は野獣の睡眠の深さを確かめるべく柄の長いホウキで背中・尻・足の裏などをついてみると、耳障りないびきのリズムが乱れるだけで全く起きる気配はない。「馬鹿たれは帰ってこんし、一体誰だかいね。」ホウキの柄で背広の内側が見えるようひっくり返し内ポケットの名前の刺繍を見てみるとサビチェビッチとある。「どっかで聞いたことがあな、馬鹿息子がいつだったか、がいな大酒飲みの知り合いでサビチェなんとかいうのがおるげなこと言っちゃったな。これ以上暴れえやなかったらほんに警察呼ばないけんことだったわ」無残に折れた孫の手、「二階にいる本当の孫に危険がなくてよかった」不思議とそう思えてならなかった。

翌朝受話器片手にニコライの前で正座して小言を言われているフィリップの姿があった。どうやら昨夜の所業の他に、会社に遅刻するという理由で学校に行こうとしていた息子の自転車を取り上げてしまったらしいのだ。恐るべしサビチェビッチ！伝説とはこのようにして創られるものか。フィリップの後ろ姿が妙に小さく見えたニコライであった。

※逸話は逸話として「英知」「友愛」「団結」のもと、中央会活動はもとより飲みも全力投球の3会員です。思い込んだらとことん、入会したからにはとことん。会員諸氏も頑強をつまれ、最後は願わくば紳士であれ！

聞いてごしない Part 13

「わからん」小学生がテスト中にいきなり立ち上がり、手にした鉛筆をボキリ。かんしゃく玉を爆発させてわめく姿に教室は騒然となった。小学校の同窓会で昔の失態を暴露され、照れ笑いもひきつった感じ。

当時のクラスメートはお互いの弱みも強みも知った仲。どんなに大人になったふりをして、互いの「首根っこ」は押さえられている。同窓会をする度に同じようなくだらない思い出話ばかり。しかし不思議なことに、いつも全員大笑い。大半の子供が「親になったとは思えない子供のような笑顔、そして会場は心が一つ。今も恩師は「子供に小さいころから勉強ばかりさせないでください。」と言い切る。確かに勉強はあまりしなかったが、あの頃の体験が今とても役に立っている。満場一致。

それが家に帰り、子供の親に戻ると、一変特に母親は「勉強しないとお父さんみたいたいになれんよ」又は「勉強しないとお父さんみたいたいになれんよ」どちらでも良いが少しはお父さん身覚えがあるのでは…。

どうせなら同窓会の延長でアホウになりきれば良いと思う。子供達はある程度は伸び伸びと生活させてやれば良いと思う。

本当に立派な親は、アホウになりきることができる人だと思ふ。中途半端に賢ぶる親は、子供の成長の芽が、自分の気に入らないところに出ると、芽を摘んでしまう。親として希望する方向にしか芽を伸ばそうとしないのだから、子供は自分の意志で伸びることができない。

ところが、アホウになりきった親のもとでは、左であろうと右であろうと斜めであろうと、方向は定まらないがグイグイ伸びていく。やがて年頃になると、何をしようか、何をしたら良いのかと自ら迷います。迷い出して定まらないときに、そっと手を差しのべると、その時こそ、子供は素直に意見も聞き、親の力を借りるのではないのでしょうか。我が子を信用する勇気を…。

今の日本の教育現場、少しはこの辺に原因があると思う。
〈中途半端なアホウより〉

コピーをして名簿にお貼り下さい

 (総務)	かない だいすけ 金居 大介	O型 専務取締役
	(有)金居運送 一般区域貨物運送事業 〒689-3537 米子市古豊千82-3 TEL 27-3993 FAX 27-3987 (KT) (EM)	
H12.02入会 (推薦者)三嶋(徳) 遠藤(徳)	(自宅)西伯郡淡江町佐陀1365-1 〒689-3425 S46.9.27 TEL.56-5712	

(コメント) はじめまして、この度、中央会に入会させて頂くことになりました金居大介と申します。入会の動機ですが、私は学校を卒業してすぐに金居運送に入社したため、視野が狭くなっており、もっと様々な職業の方々との交流を深め、そこから学ぶ事がたくさんあるのではないかと考えたからです。これからは、例会・委員会等色々な機会があると思いますが、これらの交流で得たものを着実に自分のものとして生かしていけるよう頑張ります。経験不足のため、ご迷惑をお掛けすることがあるとは思いますが、ご指導の程よろしくお願致します。

3月例会案内

と き 平成12年3月15日(水) 18:30~
と ころ ホテルサンルート米子
講 師 鳥取銀行営業企画部
くらしと経営相談所長 上原信一氏
演 題 「低迷する県内の個人消費」
～消費者はなぜどう変わったのか～
担 当 マネージメント委員会

3月役員会報告

3月定例役員会が平成12年3月1日(水)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 3月(臨時総会)、4月例会開催の件
(2) 収支見込みの件
(3) その他
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記
昨秋10年ぶりに校区民運動会に参加し、10代から40代までの年代別リレーに出場した。リレーの勝敗を分けるのは個々の走力とバトンタッチである。ちなみに走力抜群の我がチームは、アンカーの私がバトンタッチでミスをして大敗を喫した。走ることに集中して、バトンタッチを軽く見た結果である。我が西部青年中央会も、あと数カ月で1999年から2000年へのバトンタッチが行われる。バトンは25年の歴史が刻まれた大切なバトンである。絶妙なバトンタッチが行われ、ゴールまでの快走が続くことを心より望んでいる。

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 堀田收 編集責任者 小林慎一 印刷所 東京印刷社



土井一朗氏 次年度西部会長に 次年度県会長に 奥森隆夫氏推薦



平成12年2月15日(火) ホテルわこうに於いて臨時総会が開催され、次年度会長に土井一朗氏が満場一致で承認、次年度県会長に奥森隆夫氏が満場一致で推薦された。

会長指名では「土井会員は青年中央会の活動に熱意を持って取組まれ、他の会員の方にも配慮ができる経歴を持っており、会社経営においてもこの不況の中前向きな取組をされ、事業家として皆さんをリードできる方、次年度のリーダーとしてふさわしい人物である。」と堀田会長の推薦があり、承認の後、土井会員の挨拶では「私の全知全能をもって会のリーダーとして模範となり、皆様とともに21世紀の扉を開ける年度になるので力強い会の発展のために頑張っていきたい。」と決意表明があった。

県会長推薦では「奥森会員は青年中央会に積極的に活動されており、特にここ2、3年における県内での活動は目を見張るものがあり、県全体のリーダーとして皆さん方を引っ張っていく力量がある人物である。」と堀田会長の推薦理由があり、推薦承認の後、奥森会員より「西部の皆さんの推薦を頂きありがとうございます。県からの承認をいただけるよう頑張りたい。」との挨拶があった。

【次年度会長に承認された土井一朗氏の素顔】

土井一朗氏は昭和33年1月19日米子生まれ。小さい頃は勉強が嫌いでワンパク坊主。小学校の頃は悪いことをした人ということで毎日黒板に名前を書かれていたとのこと。中学・高校と米子で過ごし、高校卒業後は九州の福岡大学土木工学科へ進学、大学時代はクラブ活動で少林寺拳法をし、全九州で優勝したこともある実力の持ち主である。「九州人のおおらかで郷土愛にあふれる人々と出会えて非常によかった。」と語る土井氏の瞳は温かく懐かしむがごとく優しくなった。

大学卒業後、自ら抱いていた建設会社をやりたいという思いを胸に九州の建設会社へ2年、地元の建設会社へ2年、計4年間のサラリーマン生活をしたが、土木建設の成長期は既に終わっていると言う現実を感じ、土井氏は一念発起。今までとは全く違う畑、味屋の前身である弁当屋を。その頃は大変苦労したと語る「挨拶にいつても会って貰えなかったり、大変情けない思いもした。」しかし、その苦労も実りやがて仕出し・ケータリング企業として成長していき、今では150人もの従業員を抱える企業となった。そして平成9年には外食事業部を設立、海鮮そばた「海王」。平成11年には「こだわりーめん「風林火山」」を開店。

「自分自身この仕事をやってよかったと思っており、社員にも『感性を売る』仕事であることを誇りに持ち、10年後やってよかったなと思えるように必ずなると常々言っている。」と語る土井氏の静かな口調のなかにも力強いリーダーシップを感じた。

「二度と無い人生、価値ある人生を生きたい。人生を振り返った時、自分はいい人生を歩んだと思えるようにと、この言葉を常々心に思いながら過ごしている。」との言葉に前向きで且つ力強い人生への生き様が伺えた。

最後に今後の中央会について伺った。「中央会へ入ったおかげで今の自分があると思っている。異業種が集まっているという会は素晴らしいものである。中央会の『英知』『友愛』『団結』この3本柱の『友愛』『団結』は今現状でも素晴らしいと思っているが、自分自身も含め『英知』＝素晴らしい知恵に関してはもう少しがんばらうの点数ではないかと思っている。この『英知』と一緒に養いたい。一緒に勉強していきたいと思っています。」

今回の取材で土井一朗氏の静かな口調の中にも大きな懐と力強く導くリーダーシップに触れ、新しい中央会の静かで大きな波を感じた。



2月例会報告

平成12年2月15日(火) ホテルわこうに於いて総会終了後、2月例会が開催された。2月例会は昨年度の記念事業FV分科会、OB交流会の流れを受けベテラン会員も若手会員も膝突き合わせ、椅子をコの字に並べ年代別に座るといふ今迄に無いスタイルで「今維ごう 魅力ある中央会の魂」というテーマのもと、2020グランドデザイン委員会の担当で各会員がおおいに語り合った。



最初の発表者の落合会員は、米子商工会議所青年部と中央会の違いは、商工会議所青年部は全国組織である、奉仕団体ではない、単年度で事業を行わないという三点をあげられ、次に足立会員より(社)米子青年会議所との違いとしてJCは40歳で卒業すること、世界組織で国際交流を行なっていること、ボランティア団体であるという発表があった。

つづいて中島会員より中央会の立場とは違う立場での皆生トリアスロンとのかかわり方をユーモア溢れる話し振りで普段あまり聞くことのできないことの発表があり、そして若手の加藤会員よりトリアスロンにおけるボランティア部での苦労話などの発表があった。

そして、内田会員からは独立したときの苦労話と現在の事業のこと、これからの事業展開などの発表があり、土井会員より現在の事業に至るまでの苦労した経験、人材の育成方法、そして企業としてやっていくなら哲学が必要であるという発表があった。



徳中会員からは、中央会活動と仕事を重ねるとき先輩の思いやりで活動できたこと、退会しようと考えたとき、当時の会長、先輩、友人に励まされ今迄頑張ってきた事、仕事と中央会をいかにして両立させるかという発表があり、太田会員より20年におよぶ中央会活動の方法論を楽しく発表があった。

そして米子に帰ってまだ半年の尼子会員より中央会に入会しなかったらどうであつたらうかという視点からの発表があった。中央会のツービートこと福田会員と潮会員からは、30歳代半ば過ぎてから入会することによる何となく納得のいかない気持ちを軽妙なタッチで発表があった。

つづいて北野会員から委員長をした時の苦労話として委員会の出席率の向上、委員会の運営方法で悩んだが委員長は充実するので委員長をしたほうがよいという発表があり、河端会員からも委員長をした時には出席率で苦労したこと、そして委員会事業のことで思い悩んだ話があった。

つぎに側面から見た中央会ということで、事務局の足立さんから21年の間にあった裏話を語っていただきました。

ベテランより若手へ熱きメッセージということで長谷川郁会員から中央会に出るならば何かを感じ、自分の存在意義を高めてほしいと若手会員に助言があり、安部副会長からは先輩から受け継いだ中央会の魂とは、出席率、スケジュールの調整ができる能力、中央会活動は仕事の一部という三点ではないかという発表があった。

ここまで前田委員長の絶妙なコーディネートで進行してきた例会も、最後に全会員が輪になって肩を組み合わせ、宮廻直前会長の熱きメッセージで閉会となった。



2月度委員会報告

マネージメント委員会
平成12年2月7日(月) 於:米子食品会館 出席者/11名
内容/・3月担当例会最終打合せ
講師先生について
人員配置
タイムスケジュール

その後、非常に良い段取りで“卒会者の御祝と会の打上げ”について話し合った。

ビジネス委員会
平成12年2月8日(火) 於:米子食品会館 出席者/8名
内容/ 前回の米子市長選候補、野坂康夫氏を講師に迎え、「米子のビジネスチャンス」と題して講演していただいた。広域行政(合併)のビジネスへの波及効果、そしてビジネスチャンスの流れ(①広域化、グローバル化②規制緩和③高齢化④環境問題⑤技術革新、ベンチャー)について豊富な経験をもとに貴重なお話を聞く時間を持つことができた。2次会でも会員と熱く語り合い、有意義な委員会であった。

政治行政委員会
平成12年2月9日(水) 於:米子食品会館 出席者/12名
内容/ 長谷川氏を講師に迎え、市町村合併について、勉強をしてこられた内容をうかがうとともに、我々は、どうすべきかについて考えさせられた内容であった。

げんこつ委員会
平成12年2月7日(月) 於:米子食品会館 出席者/10名
内容/・講師:米子警察署 黒田美三子氏
「青少年健全育成・子供を誘惑から守る為」etc
非行する少年で信念をもって悪さをしている子はほとんど更正するが何も考えないで非行に走っている子はいつまでも不良行為をくり返してだんだんエスカレートする傾向が見える。
家族のしつけと社会のあり方が問われている現状である。

地域ビジョン委員会
平成12年2月8日(火) 於:米子食品会館 出席者/7名
内容/・1月担当例会の反省
出席率などについての反省
・講演 中島太郎会員に「観光について」お話をして頂いた。

皆生温泉の現状及び昨年度の海潮園でのトラブルを交えて最近の観光客の現状についての話又、観光産業の

現状についてなどユーモラスも交えてお話を1時間程度して頂きました。

21 地球委員会
平成12年2月9日(水) 於:大連 出席者/8名
内容/ ケナフネットワークジャパン(KNJ)運営委員である野々内さとみ先生を講師にまねき、又、OB会員である寿山先輩もケナフの栽培をされている事からサブ講師に招き、熱心に「すばらしいケナフ」について説明を受けた。

そして我々の手でケナフを栽培して、地球環境汚染に少しでも歯止めができればと決意を新たにしました。

新入会員の清川、長谷川両会員とも、「当委員会の熱心さに感銘を受けた」とコメントをしてくださった。

2020 グランドデザイン委員会
平成12年2月8日(火) 於:ワインセラー葡萄屋 出席者/12名
内容/ 今回は趣を変え、足立耕太郎会員の(術)ワインセラー葡萄屋さんでワインを片手に寛いだ雰囲気の中2月例会の進行チェックと担当者割当の打合わせを行なった。おいしいワインが口を軽くするのか、いつにも増して積極的な発言が多く、例会の成功を誓い合った。研修の新人3会員も徐々に場に慣れ、色々傾聴に値する建設的な意見を述べていた。

広報委員会
平成12年2月3日(木) 於:米子食品会館 出席者/16名
内容/ 有限会社インサイトの植田寿雄会員が配属され、今月から広報委員会は17名となった。また今回は、平成11年度入会の新入会員研修として、総務委員会の加藤航会員と小林孝俊会員も参加された。

- ・ハンサム3月号の編集
 - ・25周年記念誌・委員会報告書の担当者決め
 - ・会員名簿作成・ホームページメンテナンスの作業確認
- 終了後、清川会員経営のキーウエストに場所を移し、新入会員歓迎会を行った。

総務委員会
平成12年2月10日(木) 於:米子食品会館 出席者/12名
内容/・新入会員居氏のあいさつおよび紹介
・4月レクリエーション例会の件

- 運動会を行う
 - 競技プログラムについて 各人種目を考え、みんなで検討、日時、場所、食事等について(4/16)
- その後居居氏の歓迎会を場所を移して行った。

西部青年中央会の選挙運動に対する方針について

会長 堀田 収

西部青年中央会が選挙運動にどう関わるべきなのか、24期から議論を重ね、引き続き25期でも取り組んできました。とてもデリケートな問題ではありますが、役員会、例会、委員会を始めとして全員でオープンに議論を重ねてきました。議論のポイントとして、以下の5項目について、特に重点的に話し合いをしました。

- (1) 西部青年中央会として、選挙の度に、現役、OB、また、今まで関係のあった候補者多数に、推薦状を出している。
- (2) 一議席に対して、複数名に推薦状を出している。理論的に、矛盾していないか。
- (3) 毎回、役員会では、推薦状を出すにあたって、会をあげて候補者を応援するという事ではなく、推薦に値する立派な候補者であると認められるという意味であるとの申し合わせをしているが、これが対外的に通用するのか。
- (4) 複数名に推薦状を出しているが、選挙運動はあくまで個人の自由意志によるものであるため、結果として、各候補者に対する応援にアンバランスがある。
- (5) 本会の歴史、目的と使命を考え合わせて、本会は政治にどう関わるべきか。

これまでの議論をふまえて、1月の役員会において、本年度の役員会として、次の3項目を、方針決定致しました。

1. 選挙運動はあくまで個人の自由の意志によるものであり、中小企業青年経済団体である西部青年中央会が、主体的に選挙運動を行なうことは不適切である。
2. 中小企業青年経済団体である当会の会員は、積極的に政治に関心を持たなければならない。しかしながら、選挙運動は、あくまで個人の責任においてなされるべきである。
3. 従って、当会は、特定の個人又は政党その他の団体の為に、選挙運動を行うべきではない。また、特定の選挙立候補者に対して、推薦状を出さない。

この件に関しまして、アドバイス・ご意見を頂きました先輩方、関係諸団体の皆様方に御礼申し上げますとともに、どうぞご理解賜りますように、お願い申し上げます。今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。